



はね 波根湖

設置場所 大田市久手町

設置年度 昭和17年度～昭和25年度

設置事業名 代行干拓事業

施設工事費 23百万円

寸法規格(構造)等 造成面積:53.8ha 河川改修:4,380m 締切り堤防:356.5m

排水樋門:幅2.0m 高さ1.8m コンクリート手動式12門

排水機:口径380mm 30PS 口径900mm 120PS

揚水機:口径250mm 7.5PS

施設機能(目的)

昭和16年に農地開発法が制定され、昭和18年より波根湖の西北部を延長356.5mの堤防で締切って、干拓工事が始まり、種々変遷を経て昭和26年に53.8haの干拓事業が終わった。

その後、昭和49年には干拓地を含む久手地区県営ほ場整備事業に着手し、平成4年に完成した。しかし、その後、他事業で設置した排水ポンプ施設が老朽化等により、降雨時の湛水に苦慮したため、平成5年より土地改良総合整備事業で農道や排水機場等を整備している。

設置経緯

波根湖は、昔、日本海に面した海跡湖であって、しばしば氾濫することから、1299年より1306年にかけて、大田市久手町にある要害山と梶山の間を開削し、波根湖より日本海に排水した。

その後、江戸時代は水田が財政の基盤であったことから、この地方でも新田開発が盛んに行われ、明治以降は塩害対策工事や農家による小規模な埋め立てが引き続き行われていたようである。

干拓工事完成直後は、腰までつかって泥を積み上げ、畦畔を造り、用排水路を整備し、重粘土に悩まされながら水稻の植え付けをしたようである。時には、塩害を受け干拓地の営農は非常に厳しいものがあったようだ。